

みんなが健康の 第一人者になろう！

～患者さんもチーム医療の一員です～ No.5

itami

市立伊丹病院特集号

令和7年3月15日 市立伊丹病院
〒664-8540 伊丹市昆陽池1丁目100番地
TEL：072-777-3773(代表)



伊丹市マスコット たみまる

- 市民の皆さんの健康づくり・疾病予防に貢献するため、当院が取り組む医
- 療や身近な疾病に関する情報を、当院の医師やスタッフがわかりやすくお
- 伝えします。

パルスフィールドアブレーション～カテーテルアブレーションのための最新機器を導入しました～ 循環器内科

カテーテルアブレーションは、不整脈を治療するための手術の一種です。細い管（カテーテル）を足の付け根などの血管から心臓に挿入し、異常な電気信号を引き起こす部分を熱や冷却で障害することで、不整脈を改善します。この冬から当院でパルスフィールドアブレーションという最新のカテーテルアブレーション機器が導入されました。

不整脈

我々の筋肉は電気刺激で動きます。そのために発電所などの電気システムが存在します。通常の手足などの筋肉の発電所が脳にあります。心臓は筋肉で出来た袋で全身に血を流すポンプの役割を担っています。心臓も筋肉なので電気刺激で動きますが心臓の発電所は脳ではなく心臓内にあります（そのため心臓は自分で考えては動かせません）。心臓は刺激伝導系という電気ネットワークを持っています。心臓の電氣的な異常によって脈拍が乱れて遅くなったり、早くなったりする状態を不整脈といいます。



心房細動

心房細動とは臨床診療で遭遇する最も一般的な不整脈です。動悸などの症状、心不全、脳梗塞などの塞栓症など様々な問題を引き起こし入院や死亡の危険性を上昇する事でも知られています。当院では2017年からカテーテルという細い管を血管から心臓に挿入して異常電気の部位を熱や冷凍で治療するカテーテルアブレーションを行っています。

心房細動のカテーテルアブレーション

心房細動の多くは心臓の左心房に繋がる肺静脈からの異常な電気刺激(期外収縮)が原因で起こるといわれています。そのため、肺静脈と左心房の電気伝導をブロックする治療を行います。心房細動のカテーテルアブレーションは肺静脈隔離術という別名がついています。肺静脈以外に電気刺激が生じたり、異常がある場合はその部位に対して治療を追加しています。

パルスフィールドアブレーションの仕組みと特徴

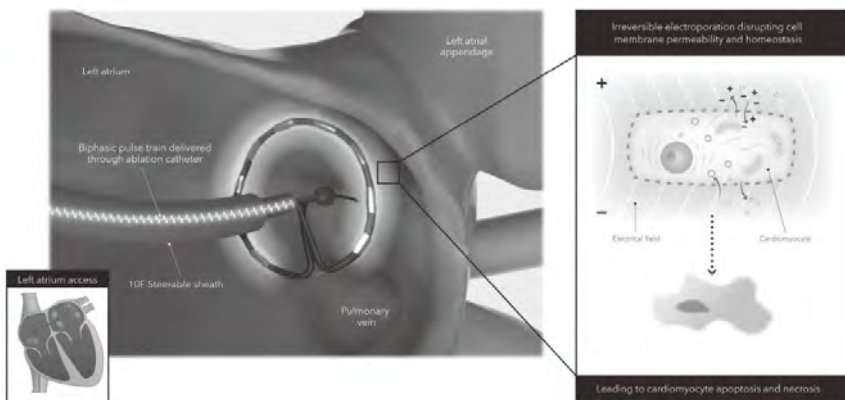
パルスフィールドアブレーションは、極めて短い高電圧のパルスを送ることによって、異常な電気信号を伝導する組織を破壊します。この方法は、従来のカテーテルアブレーションで使用されていた高周波アブレーションやクライオアブレーションとは異なり、電氣的なパルスを用いることで細胞膜に小さな穴をあけることにより細胞死を誘導する方法で、熱は発生しません。高周波アブレーションやクライオアブレーションでは、熱や冷却によって心臓周囲の組織（食道や神経など）が障害を受ける可能性があります。パルスフィールドアブレーションではパルスによってターゲットとなる組織のみが破壊され、心臓周囲の組織とは組織破壊の閾値が異なるため周囲の健康な組織への影響が抑えられます。治療をする心臓の周囲にある健康な組織への影響を最小限に抑えることができ、治療自体も短時間であることから治療後の副作用や合併症のリスクが低減します。

特に心房細動の治療において、パルスフィールドアブレーションは高い安全性と効果が示されています。欧米では心房細動に対するアブレーションでは主流となっていて、日本でも

パルスフィールドアブレーションは、心房細動をはじめとする不整脈の治療において、近年注目を集めている新しい技術です。この技術は、従来の高周波アブレーション（熱エネルギーを使用）やクライオアブレーション（冷凍エネルギーを使用）といった手法とは異なり、電氣的なパルスを使用して異常な電気信号を発生させる心筋組織を選択的に破壊することができます。

2024年に保険償還となり使用できるようになりました。当院では兵庫県でも数施設目にこのパルスフィールドアブレーションを導入し治療を行っています。

医療技術の進歩は目覚ましく、当院では他にも高い安全性と効果を実現したカテーテルや心臓の形態・心内電位の情報・カテーテルの位置などをリアルタイムに表示する最新の3次元マッピング装置などを用いて、より安全で効果的な満足いただける治療を行うよう努力しています。



産婦人科

産婦人科医師・助産師からのメッセージ

はじめまして。市立伊丹病院の産婦人科は、妊娠中の皆様が安心して健やかなマタニティライフを送れるよう、専門スタッフが丸となってサポートしています。妊娠から出産、そして産後のケアまで、トータルでお手伝いする体制を整えており、お一人おひとりのライフスタイルやご要望に合わせた柔軟な対応を心がけています。

また当院では充実した医療設備を整えるとともに、医師や助産師、看護師が親身なって対応することで心の通ったケアを大切にしています。妊娠中の不安やお悩みに寄り添い、安心して出産の日を迎えていただけるよう、全力でサポートいたします。ぜひ一度、当院をご見学いただき、私たちのケアの特長を感じてください。

あなたと赤ちゃんにとって最良の環境をご提供できることをスタッフ一同楽しみにしております。



妊婦様の気持ちに寄り添います



お目にかかれるのを楽しみにしております

病院見学のご案内

マタニティクラスの際に院内をご見学いただくことが可能です。これからご自身が、健診、入院、出産されることを想像されながら、院内をご覧ください。当日の状況により、ご見学いただけない場合がございます。その際はご了承ください。

- 日時** 第2・第4火曜日 PM
(※日時は当院から指定させていただく場合があります)
- 料金** 無料
- 持ち物** 特にありません。
- 予約** 市立伊丹病院 ☎072-777-3773
「マタニティクラス病院見学について」とお申し出ください。

マタニティクラス



丁寧に指導させていただきます



母親学級・個別指導を通じて親になる準備をしていきます

産後ケアについて利用対象者を拡充します！

R7年4月からの利用対象者（宿泊型のみ）

- 当院で分娩をされた方は勿論、他院で分娩された市内在住者
- 生後59日まで

子育てに豊富な経験を持つ助産師による手厚い支援が受けられます。

どんな悩みにも丁寧に対応します。

バランスを意識した御食事を提供します。

分娩の立ち合い、面会、分娩費用

- 分娩の立ち合い** 夫（パートナー）のみLDR内で陣痛・分娩・回復のお時間をお過ごしいただけます。
- 分娩後の面会** 14：00～16：00
※個室に限り、10歳以下のお子様も入室可能（但し、新生児とご兄弟の面会は出来ません）
- 分娩費用** お住まいが市内の方：50万円～52万円前後
お住まいが市外の方：53万円～56万円前後
（分娩費用には個室料金は含まれていません）

小児科医からのメッセージ

新生児の健やかな成長には、温かいケアと適切なサポートが欠かせません。母子ともに健康で退院できるよう、大切なお体を全力でお守りします。



未来を育む、あなたの選択肢に市立伊丹病院を

出産以外の急病にもすぐに院内対応できる総合病院での出産

市立伊丹病院では、24時間体制で出産に関わるスタッフが常駐していると共に、2次医療機関として入院や手術を要する重症患者に対応しているため、産婦人科以外の内科、外科などの診療科の診察がその場で受診可能です。妊娠周産期の不安な毎日を少しでも安心頂けるよう、合併症や、急変時に院内ですぐに対応できる環境を整えています。また、自然分娩から帝王切開まで、個々の状況に応じた適切な分娩方法をご提案します。さらに、妊娠中から産後まで一貫したケアを提供し、安心して出産に臨める体制を整えています。

分娩経験者のインタビュー

実際に出産をされたAさんへ「市立伊丹病院で出産前後の期間を過ごされた感想をいただけませんか。」とインタビューを実施してみました。

● **スタッフの印象はいかがですか？**

「2Dエコーで発育度合いを確認した際に丁寧な説明があつて、大事にしてくれているなと感じた。前の子はコロナ渦であつたので、最小限の人数のスタッフしか接することができず、不安なところがあり心配していたが、多くのスタッフが連携をとって接してくれてチーム医療の良さを感じることができた。」

● **設備についてはどうでしたか？**

「LDR室が、トイレを含めて新しくてめちゃくちゃよかった。一番の病院選びのポイントは“施設のきれいさ”、新しい病院になるのでそこは今後心配ないかと思うが、古い設備だったが清潔感が保たれていたのが良かった。」

● **たくさん病院がある中で、総合病院を選んだ理由は？**

「総合病院を選んだ理由は、自宅からの距離、通院しやすさ、すぐに病院に行ける事が最も重要だと感じた。また救急医療体制が整っており、小児科やその他の科がある点についても安心できると感じた。私は今回無事に出産できたが、何が起るかわからない不安な出産を、救急医療体制を整えている病院で過ごす事ができたのは精神的な安心感があると感じた。」



写真、インタビューを快く引き受けて頂きました。

● **嬉しかった出来事がありますか？**

「バースプランを何も考えてなかったけど、照明や音楽をムードの良いものを流してくれて嬉しかった。」
「今回二人目の出産であつたが、1度は教えてもらった事がある注意事項を思い出す事が難しいと感じ、不安だったが、母子共に注意しなければいけないことを、しっかり話ししてもらえた事がとてもありがたかった。その人にとっての一番良い選択肢と一緒に考えてくれて、親身な対応が接しやすかった。」

入院から出産までを全力でサポート

LDR(陣痛・分娩・回復)室



LDR(陣痛・分娩・回復)室で安心して過ごせます。

祝い膳



祝い膳をリニューアルします！
(写真は一例)

産褥室・入院病室



出産後は入院病棟でお過ごしいただきます。

沐浴指導(新生児の入浴)



沐浴もしっかりと支援します。

内分泌疾患について

糖尿病・内分泌・代謝内科

多くの患者さんには聞きなれない内分泌の疾患について今回、解説します。

内分泌疾患とは

身体の中で働くホルモンが過剰になったり、不足したりして起きる病気を言います。ホルモンは内分泌臓器から血液中へごく微量に分泌され、体調を整え、健康や生命を維持する働きがあります。

ホルモン(生体内情報物質)の種類

ペプチドホルモン（成長ホルモンやインスリンなど）
ステロイドホルモン（副腎皮質ホルモン、性腺ホルモンなど）
アミノ酸誘導体（アドレナリン、甲状腺ホルモンなど）など。



内分泌臓器	代表的な疾患
下垂体	先端巨大症（巨人症）、中枢性尿崩症、汎下垂体機能低下症など
甲状腺	バセドウ病、橋本病など
副甲状腺	原発性副甲状腺機能亢進症など
副腎	クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫など

主な内分泌疾患 ①バセドウ病、橋本病(慢性甲状腺炎)

主に甲状腺ホルモンが過剰になるバセドウ病、ホルモンが不足する橋本病が代表的です。バセドウ病では、動悸、汗をかく、食欲は増すけれど体重は減少する、などの症状があります。橋本病では、疲れやすい、動作が遅くなる、寒さに弱い、などの症状があります。高齢者で甲状腺の機能低下により認知症様の症状を示すことがあり、甲状腺ホルモンの補充療法により改善が期待されます。

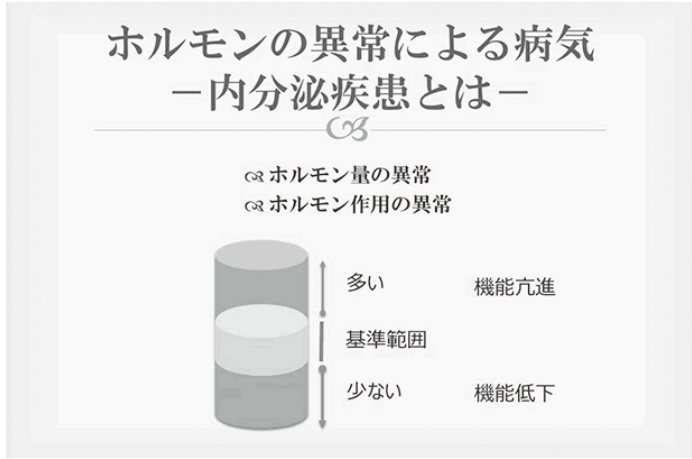
主な内分泌疾患 ②クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫

クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫はいずれも副腎ホルモンが過剰になって起きる疾患です。クッシング症候群ではコルチゾールが過剰となり、身体の変化（ざ瘡、多毛、中心性肥満、皮下出血など）、高血圧、糖尿病、骨粗鬆症などの合併が見られます。原発性アルドステロン症ではアルドステロンが過剰となり、高血圧、低カリウム血症などが見られます。全高血圧患者さんの約10％に潜んでいるともいわれています。また、褐色細胞腫も高血圧を引き起こすほか、動悸や胸痛発作などがあります。副腎外に見つかる場合もあり診断に難渋します。そのほか、副腎ホルモンが不足する副腎皮質機能低下症があり、電解質異常や低血圧、低血糖など特徴的な徴候を示す場合もありますが、体がだるい、食欲がないなど、あまり特異的な症状を呈さない場合もあり、慎重な診断が求められます。

内分泌疾患の検査と治療

内分泌疾患は高血圧、糖尿病、骨粗鬆症などのありふれた生活習慣病に紛れて、見過ごされていることがあります。また、血液中の電解質（ミネラル）の異常や胸部や腹部のCTなどで偶然に見つかる副腎腫瘍なども疾患発見のきっかけになります。診断を確定するためには、いずれも過剰になったり、不足したりしている血液中のホルモン量を測定します。また、ホルモンの分泌反応を調べる内分泌機能検査、内分泌腫瘍の有無を調べるCTやMRIなど、さらにはアイソトープ（RI）を用いたシンチグラムの画像検査をします。ホルモン産生腫瘍があれば手術で摘出することが一番の治療法です。その他、過剰なホルモンの作用や分泌を抑える薬剤（拮抗薬、合成阻害薬）の使用や、不足するホルモンの補充療法などが行われます。いずれの疾患も早期に診断して、適切な治療をすることが最も重要です。

出典
日本内分泌学会HP「ホルモンについて」より



「新しい認知症観」のご紹介ー認知症に対する理解を深めよう 認知症疾患医療センター

「認知症になったらおしまい」、「認知症の人は何もわからない」、と思っている方があります。それは古い認知症の捉え方です。この20～30年で認知症に関する理解は大きく変化しています。認知症は特別な病気ではなく、誰もがなりうる病気です。認知症になってもできることはたくさんありますし、適切な治療や支援を受けて自分らしく生きることが可能で、その権利があります。国は、認知症施策推進基本計画（令和6年12月公布、以下、基本計画）の中で、こうした「新しい認知症観」を、国民一人一人が理解することを向こう5年の重点目標と定めました。

「新しい認知症観」とは

私なりに「新しい認知症観」を従来の認知症観と対比して示します。

視点	従来の認知症観	「新しい認知症観」
呼び方	認知症の患者	認知症の人、認知症のある人
誰の病気？	他人事	自分事、誰もが認知症になりうる
病気のイメージ	認知症になると何も分らない、何もできなくなる	認知症になってからも、できることや、やりたいこと（希望）がたくさんある
病気の進み方	進行を止められない	早期に適切な治療や支援を行うことで進行を遅らせることができる
本人(家族)の考え	他人に知られたくない 失敗をみられたくない	自分らしく生きるために、自分のできること、必要な支援を知ってほしい
対応の仕方	周りの人に困り事を聞く 介護者の負担を減らす	本人のニーズを聴く、 本人へ適切な支援・ケアを提供する
社会的 位置付け	支えられる対象	一人の尊厳ある個人、認知症施策への参画、 共生社会で支えあう存在
家族	介護する人 支援されるべき対象	本人が自分らしく生活できるよう支援する人、 共に社会へ発信する存在

「新しい認知症観」といいながら、実は10年以上前から分かっていたことです。残念なことに、ほとんどの方は従来の認知症観をお持ちでしょう。そうした方に「物忘れ」が始まったとき、認知症かも？と心配しながらも、他人に知られたくない、という思いが強く、受診が遅れ、早期診断・早期治療のチャンスを逃してしまわれます。すべての国民に、「新しい認知症観」を正しく理解していただきたい理由の一つです。

「新しい認知症観」の背景と意義

「新しい認知症観」は当事者の声です。2014年設立の一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ代表の藤田和子氏をはじめとする認知症のご本人から発信された声は、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」（以下、基本法）成立（令和5年6月）の原動力となりました。

こうした活躍される当事者を見ると、認知症の進行を遅くするために社会参加が重要だということがよく理解できます。コロナ禍では、ステイホーム、ソーシャルディスタンスを余儀なくされて、認知機能障害が進んでしまった方が多いです。自宅に籠って、社会との繋がりがないと脳は弱ってしまうのです。「認知症になったら何もできない」という従来の誤った考え（偏見）が、認知症の人を社会から孤立させてきました。「新しい認知症観」が、国民の常識となれば、認知症の人を孤立させることなく、「共生社会」の実現に向かえるでしょう。

最近、早期アルツハイマー病の治療薬が発売され、当院でも治療を行っています。まだ半年ほどですが、この治療を受けておられる方は病気の進行が遅いように感じています。点滴のために月2回の通院が必要ですが、それ自体が社会参加になっている側面があると考えています。基本法、基本計画をうけて、今後、認知症に関する国民の理解が深まり、研究・技術開発に一段と弾みがつき、早期診断や、より有効な治療法が登場することが期待されます。

認知症に対する理解を深め、共に支え合いましょう

基本法が目指す「共生社会」は、「すべての人が相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会」です。そのためには、私たち一人ひとりが認知症に関する正しい知識をもち、偏見をなくさなければなりません。基本計画では、学校教育や社会教育の場を通じて、「新しい認知症観」の普及を謳っています。遠回りのようですが学校教育に期待します。

認知症疾患医療センターは、認知症の鑑別診断・初期対応、医療相談、行動心理症状への対応、診断後支援と合わせて、正しい知識の普及・啓発を業務としています。当院もその使命を果たし、「共生社会」の実現に貢献したいと考えています。